

## 再 評 価 書

箇所名	一般国道167号 いそべ 磯部バイパス	事業名	道路事業	課名	道路建設課 (志摩建設事務所)
事業概要	工期	H24年～R6年	全体事業費	12,000百万円(負担率：国5.5：県4.5)	
	(下段：前回)	H24年～R3年	(下段：前回)	8,500百万円(負担率：国5.5：県4.5)	

### 事 業 目 的 及 び 内 容

■当該路線の状況

- ・当路線は、伊勢志摩連絡道路として伊勢自動車道および伊勢二見鳥羽ラインと一体となって、伊勢志摩地域の高速交通網を形成する道路であり、伊勢志摩地域の生活・産業・観光を支える重要な幹線道路であり、緊急輸送道路にも指定されています。
- ・国道167号現道の一部区間は津波発生時の浸水想定エリアに位置しているため、大規模地震発生時は緊急輸送道路の機能が確保できない恐れがあります。また、県道伊勢磯部線も当路線と同様に緊急輸送道路に指定されていますが、雨量規制区間に指定されています。
- ・国道167号現道部は、大きく湾曲し線形が悪いことや、狭隘部があることから、交通事故が多く、幹線道路としての機能に支障をきたしています。
- ・救急搬送に利用されている県道伊勢磯部線は、急峻な山間部を走る道路であるため、患者への負担が大きくなっています。

■事業目的

- ・現道部に想定される津波浸水区域の回避により緊急輸送道路機能を確保
- ・狭隘区間の回避により幹線道路機能の強化及び交通安全性の向上
- ・救急救援活動の円滑な実施及び地域観光産業の支援

■事業内容

- ・事業計画期間 13年間(平成24年度～令和6年度)
- ・全体事業費 12,000百万円(工事費11,614百万円、用地費386百万円)
- ・計画延長 2,500m(起点)志摩市磯部町恵利原～(終点)志摩市磯部町五知
- ・幅員 W=6.5m(8.0m)
- ・主要構造物 トンネル1本、橋梁1橋

### 事 業 主 体 の 再 評 価 結 果

1 再評価を行った理由

全体事業費に変更があったことから、三重県公共事業再評価実施要領第2条(4)に基づき再評価を行いました。

2 事業の進捗状況と今後の見込み

2-1 事業の進捗状況

令和元年度末の事業進捗率は14%(用地取得100%、工事11%)となっています。

2-2 今後の見込み

令和6年度の全線供用に向け事業を推進します。

3 事業を巡る社会経済情勢等の変化

国道167号の津波浸水想定や線形不良、伊勢磯部線の事故多発、雨量規制区間などの問題解決のため、当事業の必要性に変化はありません。平成25年9月に伊勢志摩連絡道路の一部として「第二伊勢道路」が開通し、さらに平成29年12月に「鵜方磯部BP」が開通しました。この開通により、鳥羽市と志摩市間の道路ネットワークが強化されるとともに、国道167号を介して伊勢自動車道と繋がる広域的な道路ネットワークが拡大されており、残る区間にあたる磯部バイパスの重要度は益々高まっています。

4 事業採択時の費用対効果分析の要因の変化、地元の意向の変化等

4-1 費用対効果分析

① 前回評価時の費用対効果分析の結果

【前回評価時】(平成28年時)	
総費用(C)	72.8億円
総便益(B)	92.1億円
費用便益比(B/C)	1.3

② 費用対効果分析の結果

費用便益比(B/C)	総費用(C) (残事業) / (事業全体)	総便益(B) (残事業) / (事業全体)
【事業全体】 1.2	80億円 / 112億円 事業費: 77億円 / 110億円	132億円 / 132億円 走行時間短縮便益: 121億円 / 121億円
【残事業】 1.8	維持管理費: 2.4億円 / 2.4億円	走行経費減少便益: 8.8億円 / 8.8億円 交通事故減少便益: 2.2億円 / 2.2億円

③ 感度分析の結果

【事業全体】	【残事業】
交通量: B/C=1.2~1.3 (±10%)	交通量: B/C=1.7~1.9 (±10%)
事業費: B/C=1.2~1.3 (±10%)	事業費: B/C=1.6~2.0 (±10%)
事業期間: B/C=1.2~1.3 (±20%)	事業期間: B/C=1.7~1.9 (±20%)

※出典: 費用便益分析マニュアル(平成30年2月 国土交通省 道路局 都市局)

4-2 その他の効果

- 緊急輸送道路の機能強化  
災害に強い道路が完成することにより、伊勢自動車道や伊勢二見鳥羽ラインと一体的な緊急輸送網を構成し、広域防災拠点からの災害復旧活動に貢献すると考えています。
- 事故発生時の迂回路の強化  
磯部バイパス完成により、伊勢磯部線で事故による通行止めが発生した場合も、毎年事故が発生している国道167号の現道区間を通行せずに、安全に迂回することができます。
- 救急搬送活動の支援  
現在の搬送ルートである伊勢磯部線は、急峻な山間を走る道路であり、患者への負担軽減のため、低速走行による搬送を余儀なくされています。当該事業の整備により、走行時の安全性向上及び搬送時間の短縮が可能になります。
- 地域観光産業の支援  
平成28年5月に開催された伊勢志摩サミットにより、当該地域の知名度が向上し、志摩市の令和元年の観光入れ込み客数は、平成27年に比べ約46万人(約12%)増加しています。当該事業の整備により、高速道路から志摩地域へのアクセス性が向上することから、更なる観光客増加に貢献するものと考えています。

4-3 地元の意向

伊勢市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町で構成する「伊勢志摩連絡道路建設促進同盟会」から緊急輸送道路、救急搬送路、観光振興、地域間交流等の観点から、早期の完成を強く要望されています。

5 コスト縮減の可能性や代替案立案の可能性

5-1 コスト縮減

現場発生土の流用や防草対策工などにより、維持管理費抑制に努めるとともに、当該事業から発生する残土について、近隣への処分や他工事への流用を検討するなど、コスト縮減に努めていきます。

5-2 代替案

現道拡幅は多くの家屋が支障となることから、バイパス案が最適と考えています。また、平成30年度に用地買収が完了していることから、代替案はありません。

再 評 価 の 経 緯

平成28年度の再評価においては、事業継続の妥当性が認められたことから、事業継続を了承されています。

事 業 主 体 の 対 応 方 針

三重県公共事業再評価実施要綱第3条の視点により再評価を行った結果、同要綱第5条第1項に該当すると判断されるため当事業を継続したいと考えています。